

(伊良尾山遠望)

# 萩ジオパーク推協だより

2018年10月30日 No. 44

〒758-8555 山口県萩市大字江向 510  
TEL : 0838-21-7765 FAX : 0838-25-7767  
e-mail : [geo@cityhagi.lg.jp](mailto:geo@cityhagi.lg.jp)  
HP : <http://www.cityhagi.lg.jp/site/hagigeo/>

発行 : 萩ジオパーク構想推進協議会  
事務局 : 萩市ジオパーク推進課

Facebook: <https://www.facebook.com/HagiGeoProject>

## 第9回日本ジオパーク全国大会

### ・アポイ岳（北海道様似町）大会

10/6～8

9月6日（木）北海道胆振東部地震が発生し、甚大な被害が出て、大会開催も危ぶまれる中、第9回日本ジオパーク全国大会・アポイ岳（北海道様似町）大会は、下記の日程で開催されました。萩からの参加者は、それぞれ内容別に分かれ、研修・交流を深めました。大会の様様や参加者の感想を紹介します。

【日 程】 平成30年10月6日（土）～8日（月）（プレジオツアーは3日（水）から）

3日：プレジオツアー（本大会の分科会の前半として、アポイ岳以外の道内ジオパークで実施）

～5日：プレジオツアー／様似町へ移動／アポイ岳 GP 内視察

6日：開会セレモニー／基調講演／分科会／ポスターセッション／ブース展示／大交流会／地元物産展ほか

7日：分科会／パネルディスカッション／閉会セレモニー／ポスターセッション  
／ブース展示／ポストツアーほか

8日：ポストツアー（アポイ岳）

#### 【開会セレモニー 日本ジオパーク正会員加盟認定証授与】

10月6日（土）、開会セレモニーの中で、中田節也日本ジオパーク委員会委員長から中村事務局長へ日本ジオパーク認定証が授与されました。司会者から「認定証を手に記念撮影を」、との声がかかったところで、セレモニーに同席していた萩からの参加者が壇上かけより、皆で、記念撮影に臨みました。全国各地から集まった大会参加者に祝福され、ネットワークの一員として活動を行っていく思いを新たにしましたところ。

#### 【基調講演】

今大会の基調講演は「ジオパークの魂～世界ジオパークネットワークの活動～」と題して、世界ジオパークネットワーク協会会長でジオパークの取組を始めた人物である、ニコラス・ゾウロス氏（ギリシャ・エゲ大学教授）が話されました。講演では、どんな活動があって、ジオパークが生まれたのか、世界遺産との違いや現在のGGNの活動についてふれられました。

「ジオパーク成功の鍵はネットワーク活動であり、ジオパークは自分たちのためだけに行うものではない。高い品質を維持していく上で、認定、再認定審査がある。SDG'sの取組において、ジオパークは最も有効な例であり、岩のことだけでなく、人類のためになることである」として、講演を締められました。



〔認定証を手に記念撮影〕



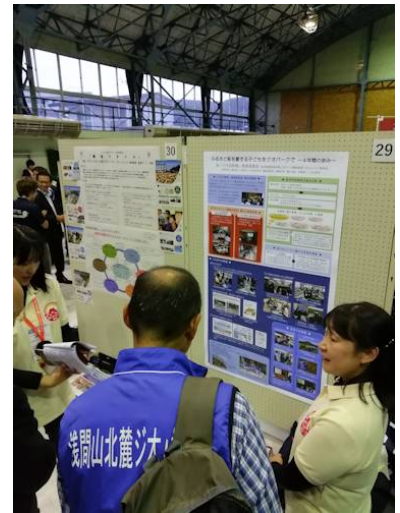
〔ニコラス・ゾウロス教授の講演の様子〕

## 【ポスターセッション】

事務局：伊藤 靖子

萩ジオパークからは2つのタイトルでポスター発表を行いました。1つは、ジオな教育推進委員会の取組です。萩がジオパークに取り組んでからの4年間にわたる活動について発表したところ、各地域の取組状況や進め方についてのアドバイスなどいただきました。もう1つは、6月末に行った山陰海岸ジオパークとの交流会をテーマに、萩の活動を振り返ったものです。山陰海岸ジオパークの関係者の方が多く足を運ばれ、萩の取組について説明を求められました。相関図をつくって大地と人のつながりを整理する方法は注目され、山陰海岸でもやってみたい、との声がありました。

〔話が盛り上がったポスター発表〕



## 【分科会】

分科会③ 「学びが生み出す地域の未来づくり」

事務局：伊藤 靖子

この分科会では、ESD（持続可能な開発のための教育）やコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）など、地域で実施されている様々な教育活動について、学び・再認識・振り返りを行い、学びが生み出す地域の未来づくりを考えるきっかけとして、ジオパーク活動における「教育」とはどういったもので、どのように進めていくか、ワールドカフェ方式で進められました。4人組でテーマについて語り合う方式は、意見が出やすく、テーマごとにメンバーを変えるため、限られた時間の中で多くの人と対話できます。萩の場合、全校がコミュニティ・スクールであり、既に学校現場、ふるさと学習にジオパークが取り入れられている点では取組が進んでいるように思いました。地域自慢、ふるさと自慢に陥らず、大地の成り立ちと人とのつながりを学び、地球の視点をもつようになることがジオパークで行う意義では、と話しました。



〔熱心な協議が行われた分科会〕

分科会⑧ 「SDG's から考えるジオパーク」

事務局：中村 浩二

SDG'sとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称。ジオパークの活動をしているとよく耳にする言葉ですね。国連会議で採択された、貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が（だれも取り残されることなく）平和と豊かさを2030年を目途に享受できるようにすることを実現するための、17項目の普遍的な行動を示しています。この分科会では、SDG'sカードゲームを通じて「経済、環境、社会」の3つのバランスが人間の行動に大きく影響されることを知りました。経済や環境、社会という単語を聞くと国家レベル、グローバルな話に見えますがゲームを通じて個人がプレイヤーとしてゲームとして楽しみながら考えることにより、一人ひとりに当事者意識が生まれ、SDG'sを身近に感じられるものでした。「個人の行動が地域を変え、日本を変え、世界を変える」。全人類が共有するたった1つの地球と良いお付き合いができるよう、“Think Globally, Act Locally”に、ジオパークに携わる一員として考えさせられる良い機会となりました。

〔SDG's 17項目にジオパークとして何をしたいのか、何ができるかを当てはめて考えてみました。〕



## 【パネルディスカッション】

7日、午後からは、2人のコーディネーターと5人のパネリストによるパネルディスカッションが行われました。パネリストの1人として、白井専門員が登壇しました。これまでの活動を振り返るために、「見える化シート」として、各ジオパークが回答し、活動傾向を色分けしたものができました。活動の長い地域は概ね良い結果でしたが、それでもできていない、という部分がありました。このシートの目的としては質の改善にあり、現在の立ち位置を明確にしていこう、というものでした。今大会についての総括もあり、プレジオツアーと分科会の連携、オーラルセッション、コーヒーブレイクの実施など新しい取組に対し、準備は大変だったが、好印象を受けたという発言が多かったです。パネリストの一人からの発言、「ジオパークは持続可能、希望につながる。」みんなが思う社会をよくしていこうという思いを強化し、サステナブルディベロップメントがカギである、と締めくくられました。



【白井専門員もパネラーとして登壇】

## 【プレジオツアー】

さあ行こう！ 一億年時間旅行へ！ （三笠ジオパーク）

事務局：白井 孝明

かつては炭鉱によって栄えたまち三笠市は、日本屈指のアンモナイト産地でもあります。まちの「お宝」を歴史や大地の成り立ちまで丸ごと学び、楽しむというコンセプトで活動をしている三笠ジオパークで、特に評価の高い学校教育分野の取組を体験しました。三笠市立博物館は、ズバリと並ぶアンモナイトが壮観ですが、周辺には野外博物館として遊歩道が整備され、1億年前と5千年前の地層を観察したり、炭鉱にまつわる産業遺産を見学したりできるようになっており、修学旅行の拠点としての機能を担っていました。また、教育委員会とジオパークが連携して作成した地域学習カレンダーの紹介もありました。小中一貫教育で共通テキストを用いた学習プログラムが学年別、単元別で可視化されており、一貫した教育実践が展開できるようになっていました。これから萩でジオサイトを活用した学校教育のための環境整備を進めていくにあたり、大変参考になる体験ができました。

### KOM-SAI（昆（虫）祭・根菜）

ジオツアー in 丸瀬布（白滝ジオパーク） 事務局：伊藤 靖子

小さな生き物たちを育むジオの成り立ちに触れるツアーに参加しました。黒曜石でナイフを作り、お肉を切る体験も行いました。河岸段丘で栽培されるジャガイモの収穫選別体験など盛りだくさんで、ツアーとしては、若干焦点がぼやけている感もありました。なぜ、黒曜石ができるのか、石器時代の人はどうのように使っていたのか、限りある地域資源（黒曜石）を今後どのように保全し活用していくのか、など興味深いものでした。白滝ジオパークの見どころ、活動しておられる皆さんのおもてなしであふれるツアーでした。



【白滝ジオパーク交流センターにて】

プロガイドと歩く「風穴の森」トレッキングツアー （とちろ鹿追ジオパーク）

萩ジオプランナー：斉藤 みよ子

とちろ鹿追ジオパークの魅力に触れながら「ガイドの安全管理」「リスクマネジメント」について学びました。北海道で一番高い標高にある然別湖の北岸を流れるヤンベツ川では、ウェダーを履き箱メガネで固有種のミヤバイワナを観察しました。冷たい空気が岩の間から流れる風穴の森には、エゾナキウサギが生息していました。ナイトウォッチングでは、星の数の多さに感動し、毛並みがフワフワした可愛いキタキツネの姿も見ることができました。ガイドの解説とアドバイスの仕方で、参加者の安全を守り、伝え方で楽しみ方が広がること。ガイドの責任と重要性を再認識した貴重なツアーとなりました。

## 【ポストツアー】

馬産地ひだかのルーツを探る！ 一日高優駿街道コース

事務局：白井 孝明

なぜ、日高地方は日本一の競走馬産地となったのか？ そのルーツを地形的な特徴を見ながら解き明かすツアーに参加しました。数々の名馬を生んできた JRA 日高育成牧場からスタートし、優秀な競走馬を育てるための広大かつ適度な高低差のある地形は、実はプレートの衝突による大地の隆起によってつくられたものであることを解き明かしていきました。さらに、そうした地球が造り出した地形の上で繰り広げられた人々の歴史をたどり、馬を育てるようになった歴史的背景まで掘り下げていくという、丁寧に作り込まれた満足度の高いツアーでした。実はこのツアーは、ジオパークエリア外が舞台であり、アポイ岳ジオパーク周辺地域へのジオパーク効果の波及というものも感じとることができました。

東蝦夷地を歴史探訪！ ブラリまち歩き

事務局：中村 浩二

江戸から明治にかけて、南北北海道の東方へ行くには険しい日高山脈、海は襟裳岬を越えなければなりません。そこで、蝦夷地の交通の要所となったのが「正に様似（まさにさまに）」、アポイ岳ジオパークのある様似町です。様似の町は、トンボロ（陸繋砂州）のエンルム岬が風待ちの良港として、また、山越えルートは様似山道（さんどう）が開発されました。この地には、幕末には役所的機能のあった会所が設けられ、等澍院（とうじゅいん）という寺院も建立されました。独特な地形が人間にとっての交通の要となり、様似という町が生まれたことがよくわかる素敵な「ブラ様似」ツアーでした。あっ、もちろん日高昆布や鮭という食の恩恵があったこともお忘れなく。



〔エンルム岬  
陸繋砂州の上には  
様似の集落がたち  
並ぶ〕

## 【参加者の感想】

「イヤイリケレ」 日本ジオパーク全国大会

アポイ岳大会に参加して 萩ジオプランナー 波田 美恵子

35年ぶりに訪れた北海道は、以前と変わらず広い大地でした。大会の中で昆布取りの様子・鮭が川を遡上する様や漁港での水揚げ・牧場の経営など人々の暮らしを見たり、その仕組みを学び又課題や問題点などを聞き、私たちの生活は長い大地の活動の下に成り立ち、動物や人の知恵と力により現在に至っており、これからも継続する。ということ強く感じました。参加した分科会（人の暮らしとジオを考える…ガイド、一般向け）では、「繋がりという観点をもち自分の地域を見てもらう」というキーワードが印象に残っています。全国から来られた参加者の方々、「うちの町長は日本に誇れる町長です」といわれた様似のおば様、等々感動いっぱいの5日間でした。快く（？）送り出してくれた家族、関わったすべての皆様に深い感謝を込めて「イヤイリケレ…ありがとうございます」。



〔ポストツアーで鮭の水揚げを見学〕

第9回日本ジオパーク全国大会に参加して 萩ジオプランナー 石飛 一枝

私は、家族から背中を押され、ドキドキしながら大会に参加しました。

アイヌ古式舞踊から始まり、だんだんと JGN 認定証授与が近づくにつれ、ドキドキがワクワクになりました。全員がステージに上がっての記念撮影では、グッとくるものがこみ上げてきました。そして、ニコラス・ゾウロス氏の基調講演でジオパークの役割を改めて心に刻むことができました。分科会では、ジオパークだからこそできる減災・防災について協議しました。ポストツアーでは、なぜ日高地方は、日本一の競走馬産地となったのか、そのルーツを地形的な特徴を見ながら解き明かしてみようというものでした。動物好きの私は、ジオガイドの人と二人で馬との会話を楽しみながら、大きな可愛い馬の目に惹かれました。たくさんの人たちと交流することができ、次回もぜひ可能であれば、参加したいと思うほどの素晴らしい記念になる大会でした。

全国大会に参加して 戦略顧問 脇田 浩二

今年で9回目となる日本ジオパーク全国大会に初めて参加しました。今大会から初めて行われたオーラルセッション（口頭発表）では、様々な地域が一生懸命がんばっている姿が感じられました。また、小・中・高の発表は、丁寧な説明とはきはきた対応でとても頼もしく感じました。オープニングや北海道150周年記念講演ではアイヌ文化の紹介があり、北海道の歴史と文化を改めて見直すよい機会となりました。もちろん、こうした歴史や文化もジオとの関係で語られていました。この全国大会で一番嬉しかったことは、日本全国のガイドさんたちが、生き生きと地域を語り、他の地域と交流しようと努力をし、和気あいあいと、ネットワークを築き上げつつあることを実感したことです。さらにジオツアーでは、ガイドの小林さんの専門家より適切で分かりやすい解説に感動しました。40歳を過ぎてからジオを学び、量子力学が好きだという文系の主婦ガイドさん。そのすごさに感動しました。広い視野からジオパークを知るために、来年はもっと多くの方にこの大会に参加してもらえればと思いました。

## 2018アポイ岳宣言

私たち、ジオパークに関わる者674名は、2018年10月6日、7日と、ここアポイ岳ユネスコ世界ジオパークに集い、これからのジオパーク活動の発展のためにこれまでの活動を振り返り、それぞれの知識や経験を共有した。そして、より良い活動をつくり出すため、交流し、新しい知識を学び、意見交換をし、議論を重ねた。

こうした2018日本ジオパーク全国大会での経験を通して私たちは、多くのことを学び、多くの気づきを得た。この経験を踏まえ、ジオパーク活動更なる発展のため、私たちは、以下をここに宣言する。

- 私たちは地球に生きる一員として世界に目を向け、地域資源の保全・活用、次世代への継承を行う。地域を基盤にしつつ、世界と未来の視点を大切にしながら、次世代を含む様々な人・組織と協働し、枠組みを乗り越えて活動していく。
- 伝承や舞踊といった無形の文化財は、人と自然と大地との関係性を示すものであり、ジオパークにおいて重要な遺産である。先住民族、地域住民の意思を尊重した上で、保全と活用をすすめていく。
- ジオパーク活動は、地域資源を活用し、郷土愛の醸成や多様な地域活動等に連携させることができる。今後はよりいっそう地域の教育活動に寄り添い、広く協働・連携を進め、深く地域を学ぶためのスパイス・ツールとしてジオパークを活用していく。
- これから起こりうる数多くの自然災害に直面した際に、存在価値が認められるようなジオパークづくりにつとめる。
- 自然（生態）遺産や文化遺産は、現在の私たちのくらしと地形・地質とのつながりを伝えるものであり、その保全と活用をより進めることで、ジオパークを社会に広めていく。
- ユニバーサルデザインの考え方を生かし、人が多様であることを認識するとともに、コミュニケーションに務め、的確な情報を把握・共有することが、時に災害につながる多様な地球活動と人が共生するうえで重要である。
- ジオパークは、安全管理のなされたジオツアーを提供する。ツアーを担うガイドは、その技術の向上を図り、ジオパークのネットワークで交流をすすめ、その技術向上を支援していく。
- これからの10年は、ジオパーク自身が、地域に対して、あるいは世界に対して何ができるかを考える。

2018年10月7日 大会実行委員長 坂下一幸

## 日本ジオパーク認定を振り返って 支援員 樋口尚樹

萩ジオパークの日本ジオパーク認定までの道のりは、長いものがありました。その道筋をつけたのは、永尾隆志先生です。先生は認定の朗報を聞くことなく、2016年5月に逝去されました。先生は山口大学で火山学を研究、教授されておられ、まさに阿武火山群は先生のフィールドでした。先生は、2000年ごろから阿武火山群の魅力を子どもたちや市民・教職員に伝えるアウトリーチに熱心に取り組んでこられました。

2007年、先生は農道工事中に発見された伊良尾山火山灰層の保存に尽力され、これがきっかけで弥富の定期的な勉強会の講師を務められ、同地区のジオパーク活動の基礎づくりに寄与されました。弥富での活動の盛り上がり、他地区へも波及したと言えるでしょう。

先生は、体調を崩される直前まで巡検や講座に多忙な日々でした。きっと先生は、「認定は通過点に過ぎない。これからが本当の正念場だ」と、叱咤激励されていることと思います。



〔永尾先生最後の出前授業  
見島にて 2015年11月〕

## 日本ジオパーク認定に当たって 戦略顧問 柚洞一央

日本ジオパーク認定は、日本ジオパークネットワーク加盟が認められたという表現が意味としては正しいです。ジオパークはみんなでブランドをつくる活動です。広くさまざまなお客さんに「ジオパークって面白いね」って思ってもらえるよう、日本中のジオパークの仲間たちと、試行錯誤し続けるプログラムです。行政・研究者・民間が相互に役割分担をしつつ、既存のやり方にとらわれることなく、新たな発想を用いながら活動しなければなりません。

萩ジオパークに興味を持ったお客さんがいるとします。その人がジオパークガイドと萩ジオパークを巡ったとしましょう。お客さんがこんな気持ちになることが理想です。とてもわかりやすく楽しいガイドで地球の営みがよくわかった。地球によってつくられた地形や地質をうまく利用しながら人々がどんな工夫をしながら生きてきたのか、そのつながりがよくわかった。植物や動物の生態と地形や地質の関係がわかった。もっと「地球の気持ち」や「川の気持ち」「海の気持ち」が知りたくなった、災害との向き合い方も考えだした。その結果「地球の記憶」を伝える地形や地質を守りたくなる気持ちになった。そんなお客さんを増やしたいのです。

ジオパークって面白い！ 他のジオパークにも行ってみよう、と思わせる活動をみんなで創り上げましょう。萩ならできる！

## オリジナル年賀はがきを発売！

この度、萩市で日本ジオパークネットワーク加盟を記念して、萩市がオリジナル年賀はがき 2019年版を発売します。各地の親戚、ご友人に萩ジオパークを紹介してはいかがでしょうか？

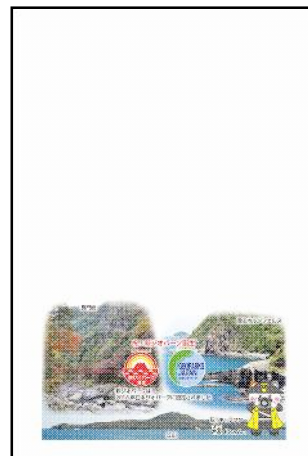
発売開始日：平成30年11月9日（金）

販売枚数：限定20,000枚

販売価格：1枚62円（白紙の年賀はがきと同額）

販売箇所：萩市役所（総合案内）、各総合事務所地域振興部門、  
各支所・出張所、（一社）萩市観光協会

☆お問い合わせ：萩市観光課（0838-25-3139）



## 萩ジオアカデミー（第3回）「日本海の誕生」開催 9/29(土)

9月29日(土)、雨の中、萩ジオアカデミー第3回講座「日本海の誕生」を開催しました。「日本海の拡大と火成活動：須佐地域を中心に」と題し、昨年度の萩ジオマスター講座に引き続き、山口大学名誉教授で、山口地学会会長の今岡照喜先生に須佐地域の生い立ち・地質発達史を1時間でお話いただきました。質疑応答に30分。昼食に梅乃葉さんのお弁当をいただき、現地見学に出かけました。

マイクロバスから降りるごとにひどくなる雨。須佐層群のレキ岩層はバスから降りて見学しましたが、高山磁石石は傘をたたく雨音でお話が聞けず。須佐ホルンフェルスは車中から遠望、解説をお聞きする形に。早めに切り上げての解散、となりました。

次回11月23日(金)は白亜紀の火成活動を佐々並で学びます。講師は今岡先生です。受講希望の方は11月5日から受け付けます。また、最終回は12月8日(土)「阿武火山群②龍が通った道」を神戸大学の清杉孝司助教を講師に行います。受講申込は11月19日からです。

〔写真上：熱心に講義を聞く参加者

下：雨の中での現地研修の様子〕



## ジオ・カメラ散歩

9/16 晴天の下、佐々並小学校運動会で萩ジオパークのプログラムが行われ、事務局スタッフも飛び入り参加。モドロ岬のような水玉模様のパンでパン食い競争。いろんな火山を味わいました。



全国大会裏ばなし。大会中、夜な夜な土佐清水 GP 構想のガイドの皆さんに囲まれて、土佐清水のジオストーリーと一緒に考えている白井専門員でした。早速、ネットワークへの貢献を実現してますね。

## 萩ジオガイド養成講座

### 「知識を伝える」から「感動が伝わる」 10/20(土)・21(日)

萩ジオガイドを育成する講座を 10/20・21 の二日間、一般社団法人をかしやの菊間彰さんを講師に招き、研修を行いました。

2 日目には実際にお客さんを案内するというハードルの高い内容。中にはガイド未経験者もいる中、たった 1 日でプログラム作りです。お客様との距離感とは？、ガイドの気を付ける視点は？、何を伝えたいの？。菊間講師から次々と出てくる技術を習得することに手一杯…。でも、しっかりと着実に皆さん習得していきましました。

翌日、快晴の下、ツアー参加者が続々と来訪。中には小学 1 年生や台湾からの留学生、女子大生や観光関連事業者まで、幅広いお客様が集まりました。ガイドメンバーは班に分かれ、枝分かれが一番多い椿を探すゲームや音探しゲーム、似顔絵づくりゲームなどを体験してもらいました。どの班も、丁寧に優しく、お客さん一人ひとりの反応を見ながら素晴らしいアクティビティを展開していきましました。ツアー参加者からは、笑い声や真剣な眼差しでゲームに挑戦する顔が見られ、とても楽しんでおられました。

最後は石切り場跡地へ。好天の中、海を臨む最高のロケーション。腰を下ろし大地との繋がりを体感して終了しました。お客様の反応は上々で、また来たいという声もいただきました。実質、たった 1 日の準備期間で、こんなに良い評価がいただけるとは！

さあ、萩ジオパークが認定するジオガイドの誕生です！ 楽しいジオツアーの展開をご期待ください。



〔写真上：椿群生林での研修〕

下：時には笑いも混じった研修〕

## 11 月の予定

●平蔵台で育った野菜は何故おいしいの？ 11 月 2 日（金）10：00～16：00（小雨決行） 集合場所：福栄夢る一らる雲海 内容：火山が作った大地平蔵台で育った

サツマイモを収穫・調理・試食し、geo とも会員の案内で大地の骨組みである半田台を探訪 参加費：1,000 円（保険料、昼食、お土産代） 主催：萩のジオパークってなんじゃろう会 問合せ：萩ジオパーク構想推進協議会事務局（萩市ジオパーク推進課）（0838-21-7765）

○萩ふるさとまつりブース出展 11 月 10 日（土）・11 日（日） 会場：中央公園 内容：萩ジオパーク&桜島錦江湾ジオパークの紹介 主催：萩ジオパーク構想推進協議会 問合せ：萩ジオパーク構想推進協議会事務局（萩市ジオパーク推進課）（0838-21-7765）

●萩ジオカフェ 11 月 15 日（木）18：30～20：00 会場：萩・元気食堂、参加費：200 円（飲み物は別途）主催：萩ジオパーク構想推進協議会 申込み：前日までに萩市ジオパーク構想推進協議会事務局（萩市ジオパーク推進課）（0838-21-7765） ※全国のジオパークからお菓子のお取り寄せ。次回の相手は…。

●geo とも（萩ジオ友の会）定例会「ジオ探訪」 11 月 17 日（土）10：00～16：00 内容：大井川の源流をたどる 参加費：100 円 主催：geo とも 問合せ：萩市ジオパーク推進課（0838-21-7765）

○萩東中公開講座～そうだ東中に行こう！～ 11 月 18 日（日）14：00～15：20 会場：萩東中学校 内容：「萩の火山は不思議がいっぱい～特別編」として、阿武火山群の恵みについて紹介 主催：萩市立萩東中学校 問合せ・申込み：萩市立萩東中学校（0838-25-2721）

●萩ジオアカデミー（第 4 回）11 月 23 日（金・祝）10：00～15：00 会場：佐々並公民館、佐々並地域 内容：萩の大地の成り立ち④「大陸の巨大火成活動」（講師：今岡照喜・山口大学名誉教授） 参加費：1,000 円（保険料・昼食代込） 定員：40 名 申込期間：11 月 5 日（月）～16 日（金） 主催：萩ジオパーク構想推進協議会 問合せ・申込み：事務局（萩市ジオパーク推進課）

●萩ジオアカデミー（第 5 回）12 月 8 日（土）10：00～15：00 会場：弥富公民館、伊良尾山周辺 内容：萩の大地の成り立ち⑤「龍が通った道」（講師：清杉孝司・神戸大学助教） 参加費：1,000 円（保険料・昼食代込） 定員：40 名 申込期間：11 月 19 日（月）～30 日（金） 主催：萩ジオパーク構想推進協議会 問合せ・申込み：事務局（萩市ジオパーク推進課）

※●の行事に参加される場合は、必ず萩ジオパーク事務局（0838-21-7765）までご連絡ください。